

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

|         |                    |           |             |
|---------|--------------------|-----------|-------------|
| 事業所番号   | 3790200020         |           |             |
| 法人名     | 医療法人社団誠和会          |           |             |
| 事業所名    | グループホーム ほのぼの       |           |             |
| 所在地     | 香川県丸亀市土器町東3丁目621番地 |           |             |
| 自己評価作成日 | 平成23年3月31日         | 評価結果市町受理日 | 平成22年10月14日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3790200020&amp;SCD=320&amp;PCD=37">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3790200020&amp;SCD=320&amp;PCD=37</a> |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                   |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人香川県社会福祉協議会  |
| 所在地   | 香川県高松市番町一丁目10番35号 |
| 訪問調査日 | 平成23年8月26日        |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

|  |
|--|
| 職員全員で考えた、「のんびりほがらかい暮らし」を理念として掲げ、利用者の一日一日が、のんびり笑顔で過ごされるような支援をしていきたいと考え、取り組んでいる。 |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

|  |
|--|
| 職員は、ホームの理念「のんびり ほがらか いい暮らし」を認識し、外出支援を兼ねた毎日の協力医院での物理療法を楽しみに待ったり、日々利用者が笑顔で過ごせるよう、利用者本位のサービスを展開している。自治会に加入し、自治会行事の清掃等に利用者・職員が一緒に参加したり、ホームで利用者・職員が共に作った手作り菓子を、近所宅に戸別訪問でおすそ分けしている。さらに、運営推進会議参加者の協力もあり、本年より新たに地域コミュニティセンターでの「弥生祭り」や「小学校の運動会」にも参加・見学を始めるなど、地域とのつながりの取り組みが活発化している。 |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目  | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印  | 項目   | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印  |
|---|--|--|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)     | ○<br>1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,19)   | ○<br>1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)           | ○<br>1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                  | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                     | ○<br>1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                 | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) | ○<br>1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くいない           |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)  | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 66 職員は、生き生きと働けている<br>(参考項目:11,12)                                      | ○<br>1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:30,31)       | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   | ○<br>1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている<br>(参考項目:28) | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |  |  |

自己評価および外部評価結果

| 自己                 | 外部  | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|--------------------|-----|--|--|---|-------------------|
|                    |     |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |     |  |  |   |                   |
| 1                  | (1) | ○理念の共有と実践<br>グループホーム ほのぼの  | 職員一同で考えた理念を、皆の目の届く所へ掲げ、理念に基づき、その人らしい安心した生活ができるように取り組んでいる。  | 職員全員で考えた理念は、「のんびり ほがらか いい暮らし」で、共同ホールのホワイトボードに大きく手書きし、日常的に、利用者の目に触れるようにしている。職員は、日々理念に沿った実践に取り組んでいる。                  |                   |
| 2                  | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している                             | 自治会へ加入して、地域の掃除や行事などに参加したり、地域での外食、買い物、散歩などして、近所とつながりながら暮らしていけるように心がけている。                                      | 自治会に加入し、職員は利用者と共に、溝掃除作業に参加している。地域の食料品店や写真店の活用や、利用者との手作り菓子を、近所におすそわけしたり、利用者と同覧を持って行くなど、日常的に地域と交流している。                |                   |
| 3                  |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                           | 回覧板を回し、行事の参加を促したり、コミュニティ活動の見学をして、参加するなどしている。また、地域の方やボランティアの方が来居し、ふれあい、理解が図れるように支援している。                       |   |                   |
| 4                  | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている         | 2か月に1回、運営推進会議を開催し、自己評価や外部評価の結果、利用者やサービスの実際などを報告し話し合い、その意見を率直に受け止め、サービス向上に取り組んでいる。                            | 運営推進会議メンバーの地区連合自治会長、民生委員の提唱で、地域のコミュニティセンターでの「弥生祭り」に参加したり、今年からは、小学校運動会の見学にも行くなど、会議での意見をサービス向上に活かしている。                |                   |
| 5                  | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる                  | 2か月に1回、グループホーム連絡会に出席したり、運営推進会議での市職員の参加を通して、実情やケアサービスの取り組みを伝えながら協力関係を築いている。また、相談したり助言を受けたりしながら、サービスの向上に努めている。 | 市役所への必要書類提出時に、事業所のゆかた祭りで踊る「丸亀音頭」のテープ貸出しの情報提供を受けたり、グループホーム連絡会のメンバーが研修で当事業所を見学するなど、事業所のサービスの取り組みを積極的に伝えながら協力関係を築いている。 |                   |
| 6                  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 研修を行い、全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を、正しく理解できるように学んでいる。利用者の身体に危険がおよぶ場合は、家族、職員で話し合っている。                     | 職員は、身体拘束となる具体的な行為について、理解している。昼間は施錠せず、チャイムを付けるなど環境を整えている。また、日頃から利用者の特性を熟知し、外出しやすい利用者を常に注意して見守り、身体拘束しないケアに取り組んでいる。    |                   |

グループホームほのぼの

| 自己 | 外部  | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
|    |     |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている     | 研修やカンファレンス等で、高齢者虐待防止に関する理解を深めたり、関連する新聞記事や切り抜き等を周知したりして、遵守に向けた取り組みができています。これからも見過ごすことなく、防止に努めていきたい。 |   |                   |
| 8  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 地域包括支援センターの出前講座等を利用して、研修を行い学んでいる。外部での研修も、機会があれば出席している。権利擁護の必要なケースは、今のところないが、学ぶ機会を作っていきたい。          |   |                   |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                     | 利用者や家族と十分な面接時間を取り、不安や疑問点を尋ね、理解・納得をもらったうえで、契約を行っている。  |   |                   |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                  | 運営推進会議や家族会を設け、話し合う機会をつくり、家族の要望を運営に反映させている。また、日頃から言い出しやすい関係づくりをしたり、モニタリングの時にも意見を吸い上げるようにしている。       | 3か月に一回の家族会を利用し、お茶を飲みながら意見・要望を聞くなど、話しやすい環境をつくっている。西日対策のすだれを取り付けたり、職員の顔と名前の一致のため、覚えるためのネームを付けたり、遠隔地の利用者の利用料振込み希望を聞くなど、要望に丁寧に対応している。 |                   |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                   | 月1回の全体カンファレンスや申し送りノートの利用、普段の気づき等で、職員から出た意見を検討し、すぐに反映させている。   | 毎月のカンファレンスを中心に、職員の希望、気づきを聞く機会を設けている。入浴時のシャワーチェアや手すりの取り付け、利用者と共にするシーツ交換日を、ゆっくりできる週末に変更するなど、入居者間の課題や対応方法を話し合うなど、職員の意見を反映させている。      |                   |
| 12 |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている   | 代表者は、できる限り職員の勤務状況や実情の把握に努めている。手当てや休暇、昇給など職場の環境・条件の整備にも努めている。                                       |   |                   |
| 13 |     | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている      | 内外部の研修の機会をつくり、職員の力量に応じたものを受講できるようにしている。また勉強会等で発表してもらい、職員のスキルアップにつなげている。                            |   |                   |

| 自己                         | 外部  | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
|                            |     |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14                         |     | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 管理者や一部の職員は、研修等を通して交流する機会がある。他の職員は、今のところ交流が少ない。                                 |  |                   |
| <b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |     |  |  |  |                   |
| 15                         |     | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている           | 初期の段階よりコミュニケーションをとり、信頼関係を築くようにして、思いや不安を受け止め、安心して過ごしていただけるように努めている。             |  |                   |
| 16                         |     | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている                      | 事前にゆっくり話し合い、家族が求めていることを理解し、一人ひとりニーズにあった対応ができるように、努めている。                        |  |                   |
| 17                         |     | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている                  | 本人や家族の思いや困っていることを相談し、改善に向けた支援や必要なサービスを見極め、適切なサービス提供に努めている。                     |  |                   |
| 18                         |     | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                                  | 日常の家事や活動など、生活の中で一緒に何かをする環境づくりをしている。また利用者のできることをしていただき、介護される一方の立場にならないように努めている。 |  |                   |
| 19                         |     | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている                   | 家族と一緒に外泊や外出をして過ごすなど、本人の思いが叶うような生活ができるように、家族と密に連絡をとりあい、良い関係づくりを心かけている。          |  |                   |
| 20                         | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                               | 近隣の場所へドライブや買い物に出かけたり、散歩したりしている。馴染みの美容院の利用、墓参りや帰宅等、なるべく本人の希望に沿うようにしている。         | 家族の協力を得て帰宅をしたり、馴染みの美容院や墓参りに出かけている。また、馴染みのスーパーで現金を使って、好みのおやつや買い物を楽しむなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないようにしている。 |                   |

| 自己                                 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
|                                    |      |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21                                 |      | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                                   | 利用者同士の関係を把握して、トラブルなどの時は職員が中に入り対応したり、活動時は、支え合えるような支援を心がけている。                             |  |                   |
| 22                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                     | サービス終了後も、お見舞いに行ったり、気軽に遊びにきてもらったり、行事に誘うなどして経過を見守り、必要に応じて相談や支援に努めている。                     |  |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |   |  |                   |
| 23                                 | (9)  | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 個々の日々の暮らしの仕方を把握している。本人の希望や意向を傾聴しながら、できる範囲で、利用者本位の生活ができるように心がけている。                       | 利用者との日常会話や行動観察により、利用者一人ひとりの思いや希望を知るとともに、家族からの意見も聞くことで、より正確な意向把握に努めている。                       |                   |
| 24                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | 日々の関わりの中で、これまでの馴染みの暮らしや環境、生きがいなどを、本人に聞いたり、家族の力を借りながら情報収集し、把握に努めている。                     |  |                   |
| 25                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 日々の過ごし方、体調、心理面などの状態観察やバイタルなどでチェックしている。また、カンファレンスやミーティング等でも話し合い、現状の把握に努めている。             |  |                   |
| 26                                 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 関係者が、家族や本人に介護計画について、話をうかがい、ケアについて話し合っている。本人や家族、職員を交えたカンファレンス等でも意見交換を行い、現状に即した計画を作成している。 | 介護計画は、利用者本人の意向を踏まえ、職員、家族が意見を交わして、作成に取り組んでいる。また、月一度のモニタリングでは、参加できない家族に、事前に声かけなどで意見を聞くようにしている。 |                   |
| 27                                 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 個別に日々の様子やケアの状況、気づきなどを介護記録や申し送りノート等に記入し、職員間で情報の共有をし、支援に反映させている。                          |  |                   |

グループホームほのぼの

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|--|---|---|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる                           | 本人や家族のその時々ニーズにより、相談しながら臨機応変に対応するようにしている。通院や送迎などの支援も状況により柔軟に対応している。                |   |                   |
| 29 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                     | 地域の保育園児との交流、ボランティアの方々の行事等への協力、自治会への参加など地域の人の力を借りて、楽しんで生活が送れるように支援している。            |   |                   |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                 | 本人・家族の希望する病院へ受診できるように、支援している。かかりつけ医と連携を取りながら、受診援助を行っている。                          | 入居時に、家族からこれまでの受診状況を聞き、本人・家族の希望する医療機関を受診できると説明している。かかりつけ医を希望の利用者には、家族との協力を得て、適切な医療を受けられるようにしている。かかりつけ医との連携は、電話連絡やかかりつけ医からの連絡簿を通して、関係を築いている。  |                   |
| 31 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                         | 協力医の看護師に毎月のカンファレンスに出席してもらったり、病院との連絡ノートの活用や電話・FAXにて状態報告などを行い、連絡を密に取り、受診できるようにしている。 |   |                   |
| 32 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入退院時には、安心して治療や生活できるように、病院関係者と本人の情報交換や相談などを行い、関係づくりに努めている。                         |   |                   |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 本人・家族と話し合い、意向を踏まえ、事業所の方針を十分に説明し、家族や本人が納得できるように共有しながら、医療機関と密に連携を図り、チーム支援に取り組んでいる。  | 入居時点で、重度化に向けた文書を読んでもらい、医療行為が必要になった時は、入居が難しいことを説明し、利用者・家族とも方針を共有している。重度化し、協力医院に入院した場合は、納得はしていても、利用者家族からは、看護よりも馴染みのある介護を希望する意見が出る場合もあるが、医療機関と連携を図り、チーム支援に取り組んでいる。現時点で事業所での看取りまでは行っていない。 |                   |

| 自己                               | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |   |
|----------------------------------|------|--|---|---|---|
|                                  |      |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容   |
| 34                               |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている           | 緊急時の対応マニュアルを作成して、定期的に研修を開いている。訓練はその時々で、必要に応じて行っているが、定期的には行っていない。                    |   |   |
| 35                               | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている           | 定期的に、協力医と共同で消防訓練を行ったり、地域の消防訓練に参加したりしている。地域での災害時対策の会合にも、機会があるたびに出席していきたい。            | 年2回、防災設備会社の方の指導・助言を得ながら夜間に当事業所台所からの出火を想定して、夜勤者一人が消防署に通報し、協力医院に連絡をすると共に、利用者を避難させたり、消火器を扱ったりする訓練を中心に行っている。              | グループホーム連絡会等を通してでも、消防署の協力・指導を得られるかを確認したり、日常的に利用者と職員が信頼関係の中で、利用者を避難場所へ誘導する等の訓練を、積み重ねていく努力が望まれる。 |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |  |   |   |   |
| 36                               | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                   | 人生の先輩として、尊敬の念を持って呼びかけ、対応するように心がけている トイレ・入浴介助 等にも特にプライバシーを損ねないように注意し対応している。          | 各個室にトイレが設置、入浴は個浴等、プライバシー確保の環境を整備している。利用者の尊厳と権利を守ることを重視し、声かけ等、プライバシーを損ねない対応をしている。また、年一回、パート職員も含めてマニュアルの確認・点検・検討を行っている。 |   |
| 37                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                     | 選択肢を出し、利用者が決定できるような場面づくりを多くするように心がけている、会話もしっかり行っていき、思いを汲み取るようにしている。                 |   |   |
| 38                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとり好きなことをしたり、声かけて本人が決めて参加したり、自由に納得のいくようにしてもらっているが、つい職員のペースになってしまうこともある。           |   |   |
| 39                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | 女性には、化粧品を使ってもらうように支援している。好きな服装を把握して、その人らしさを保てるようにしたり、自分で選んでもらったりしている。               |   |   |
| 40                               | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている     | 楽しく食事ができるように、外食や焼きそばパーティーなどを取り入れて、工夫をしている。食事の準備、片付けなど利用者と共に行うような支援もしている。            | 献立は、代表者と協力医院の栄養士が考えている。職員は、主食とみそ汁、小皿一品を作っている。利用者は、盛り付け、配膳、ランチマット置き、食器洗いを自主的に手伝っている。                                   | 今後は、利用者の力を活かし、季節の野菜を前庭から収穫したり、その食材を洗って切ったり、皮を剥いたり味付けしする等、調理の過程に参加できる機会づくりの工夫が望まれる。            |
| 41                               |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている          | 食事量や水分量のチェックを行い、摂取できていない時は補食で補ったり、好みの物を準備し、確保できるように勧めたりしている。一人ひとりの状態や好みに応じた支援をしている。 |   |   |

グループホームほのぼの

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----|------|--|--|--|-------------------|
|    |      |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                       | 毎食後、職員の声かけや介助にて、一人ひとりの状態や状況に応じた口腔ケア支援をしている。義歯の方は就寝前に入れ歯洗浄剤で消毒を行っている。                   |  |                   |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている       | 事故の防止・予防を行いながら、持てる能力を活かし、トイレでの排泄を支援している。排泄パターンを把握し、失敗やおむつの使用を減らすような対応をしている。            | 排泄チェック表の活用により、一人ひとりの排泄パターンを把握し、おむつからおむつパンツ、さらに下着のみと、排泄の自立に向けた取り組みを積極的に行い、成果を出している。         |                   |
| 44 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる                       | 水分補給や食事の工夫、体操等などの適度な運動をして便秘予防に取り組んでいる。個々に合わせた薬での調整も行っている。                              |  |                   |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | その日の本人の希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しんでもらうように心がけているが、職員の都合に合わせている時もある。声かけや誘導などをして個別の対応をしている。      | 基本的には、利用者一人ひとりの希望を取り入れ、シャワー浴を含めた個別の入浴を楽しんでいる。利用者が一人で行えない部分については、職員が介助や見守りなど安全を考慮した支援をしている。 |                   |
| 46 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している                        | 昼寝や就寝時間など、好きなようにしてもらっているが、なるべく日中活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。不眠が続くようなら眠剤も視野に入れ、個々に対応している。   |  |                   |
| 47 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている                   | 一人ひとり手渡しや介助にて服薬し、確認を行っている。職員は薬の内容や症状の変化について、申し送りノートやミーティング、カンファレンス等で周知し、把握できるように努めている。 |  |                   |
| 48 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている      | 得意なことや好きなことを把握し、力を発揮してもらえるように、役割を持った生活を支援している。個々に好きな嗜好品、楽しみごとを取り入れ、気分転換を図っている。         |  |                   |



グループホームほのぼの

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|------|--|--|---|-------------------|
|    |      |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している                      | 希望を聴きながら、一緒に散歩、買い物やドライブに出かけたり、季節ごとに、花見や菖蒲見物、紅葉見物などに出かけている。家族にも声をかけ、協力しながら出かけられるように支援している。          | 利用者全員が、毎日交代で物理療法に出かける際に、前庭の作物の生育の様子を観察しながら外気に触れる機会を設けるなど、日常的な外出支援を行っている。また、利用者の楽しみの一つになっている近くのスーパーでの買い物に出かけられるよう支援している。           |                   |
| 50 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | 家族の協力を得て、利用者自身がお金を持ち管理している方や、ホームで管理し、買い物をする時に所持して支払いをしてもう方など、個別に対応している。                            |   |                   |
| 51 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 家族等と電話でのやり取りをしてもらうことや、手紙を書いてもらい郵送するなど、家族と相談し支援している。  |   |                   |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節の花や展示物等で季節感を出したり、観葉植物を置くなどして、居心地よく過ごせるようにしている。また、ホールのホワイトボードを利用し、季節感のある風景や歌を描き、楽しく過ごせるように配慮している。 | 廊下の壁に、利用者が手袋をはいて色付けをした「夜空を彩る花火の絵」が飾られていたり、共同ホールには、ホワイトボードの中心に手書きの唱歌が書かれていて、その周りは、折り紙や切り紙で作成した季節感のある展示物を飾る等、和やかで居心地の良い生活空間を工夫している。 |                   |
| 53 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | テーブルやソファを置き、利用者同士で話したり、一人でゆったりと新聞を読むなど、くつろげるようにしている。   |   |                   |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 本人が使っていた物や思い出の品・写真などを、家族に協力して持って来てもらい、好みに合うように工夫し、居心地良く生活できるようにしている。                               | 居室には、家族の写真やぬいぐるみ、フットマッサージ等、利用者一人ひとりの使い慣れたものや好みのものを置いている。また、基本的には利用者の個室は、利用者が掃除をしたり、職員が手助けし清潔にする等、本人が居心地良く過ごせる工夫をしている。             |                   |
| 55 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | 自室や自室のトイレの場所などが分かるように、目印をつけて、自立した生活ができるように配慮している。職員も話し合いをしていき、スムーズに生活できるように対応している。                 |   |                   |